



なぞって練習 [行書体]

郊外のややや遠い山である。これは三月の三日だった。京の桜はもう散っていたが、途中の花はまだ盛りで、山路を進んで行くにしたがつて溪々をこめた霞にも都の霞にない美があった。窮屈な境遇の源氏はこうした山歩きの経験がなくして、何事も皆珍しくおもしく思われた。

■参考

※溪々【たにたに】

※霞【かすみ】

※窮屈【きゆうくつ】

(青空文庫のフリガナあり)